

2019年度 アメリカ・ウオッシュバン大学研修

研修期間：2020年2月15日～3月14日

人文学部教育・臨床心理学科 2年次生

研修中は、大学内外、老若男女問わず、たくさんの方々と話したため、その中で会話のパターンや感覚を掴めたのは今回の大きな収穫でした。中でも、アメリカの友人と話していて将来の夢を尋ねられた時、私には明確な夢がないため「普通に企業に就職したい」と答えるとつまらなそうな顔をされてしまったのが大変印象に残っています。彼らに夢を聞くと、全員が明確な職業名で答えてくれました。その上その大抵が自らの専門科目に沿った将来設計をしており、中にはその道のサークルに所属している人やジャーナリストを目指していてもうすでに趣味で書き物をしている人もいました。最終日にスタッフのハイディと話す機会があったのでこのことについて話してみたところ、「（何かに対して）情熱を持っていることは、アメリカ人にとってはとても重要なことなのよ」というような返答をいただきました。つまり、アメリカのそういった風潮が、若者に将来の目標を持たせ、意欲的に学習させているのです。それだけではなく、アメリカのキャリア教育は日本よりも早い段階で行われているため、アメリカの若者は明確な将来の夢を持ちやすい、と学科の講義で教わったことがありますが、自分が何のために大学で学ぶのかを今回改めて考えさせられた気がします。今後は彼らの姿を思い出しながら、自らをより良い方向に成長させられるように励んでいこうと思います。

